

登企第58号
令和6年4月30日

内閣総理大臣 殿

登別市長 小笠原 春一

アイヌ施策推進地域計画 事後目標評価報告書

アイヌ政策推進交付金事業実施要綱（令和元年9月6日付け府ア推第5号）第3条第3項に基づき、アイヌ施策推進地域計画の事後評価結果について別紙のとおり報告します。

アイヌ施策推進地域計画 事後 目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	目標年度
北海道登別市	登別市アイヌ施策推進地域計画	令和5年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B／A	備考
登別市立図書館を利用した市民の割合 (アイヌの伝統等普及啓発事業)	14.0%	7.67%	54.8%	
市アイヌ関係WEB閲覧数 (アイヌの伝統等普及啓発事業)	5,000 アクセス /年間	40,000 アクセス /年間	800%	
登別市観光客入込数 (アイヌ文化のブランド化推進事業) (アイヌ文化関連の観光プロモーション事業) ((仮称)登別市情報発信拠点施設整備事業)	4,100 千人/年 間	3,466 千人/年 間	84.5%	
外国人観光客宿泊延べ数 (NZ・サイパン等との交流事業) (鉄南ふれあいセンター(幌別生活館)改修・交流事業)	600 千人/年 間	431 千人/年 間	71.8%	

アイヌ施策推進地域計画における目標	達成状況	備考
登別市立図書館を利用した市民の割合 (アイヌの伝統等普及啓発事業)	新型コロナウイルス感染症の影響により、不要不急の外出を控える傾向があり、目標値の達成に至らなかった。	
市アイヌ関係WEB閲覧数 (アイヌの伝統等普及啓発事業)	アイヌ文化の振興等に係る本市での取組やウポポイの開園等により、アイヌ文化への関心が高まったことから、目標値を大きく上回った。	

登別市観光客入込数 (アイヌ文化のブランド化推進事業) (アイヌ文化関連の観光プロモーション事業) ((仮称)登別市情報発信拠点施設整備事業)	新型コロナウイルス感染症の影響により、国内における不要不急の外出を控える要請や海外からの入国制限などがあったことから目標値の達成に至らなかった。	
外国人観光客宿泊延べ数 (NZ・サイパン等との交流事業) (鉄南ふれあいセンター(幌別生活館)改修・交流事業)	新型コロナウイルス感染症の影響により、海外からの団体旅行等の制限があったことから目標値の達成に至らなかった。	

(コメント)

「登別市観光客入込数」及び「外国人観光客宿泊延べ数」については、令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたが、コロナ禍前までの水準には戻らなかった。

「登別市立図書館を利用した市民の割合」については、コロナ禍による外出が抑制されたことで利用者が減少していたが、外出制限の緩和後であっても、市民の生活様式に変化が生じたことにより、利用者数がコロナ禍以前の水準に至らなかったことや、利用者の高齢化だけでなく、市内全域において人口減少の影響により相対的に利用者が減少していることが原因と考えられる。

2. 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>【事業名】文化振興事業（アイヌの伝統等普及啓発事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市民や観光客のアイヌ文化に対する興味関心を高めるため、市公式ウェブサイトに特設ページを開設（令和元年度） ● アイヌ関連資料の劣化及び散逸を防止するため郷土資料デジタル化を実施（令和2年度） ● アイヌ文化関連資料の散逸等を防止するとともに、展示等の利便性を高めるため、調査と目録の整備を実施し（令和2年度）、展示環境の向上のための備品購入（令和3年度） ● アイヌ文化関連施設誘導看板及びアイヌ関連史跡等の説明看板を設置（令和3年度、令和5年度） ● 知里森舎の森の樹木伐採・植物表示札の整備（令和5年度） ● 魅力あるアイヌ関連文献資料等を提供するため、絶版図書を含めた文献収集を実施（令和元年度～令和3年度） ● アイヌ文化を身近な存在として感じてもらうため、アイヌ 	市

<p>文様が刺繍されたタペストリーを製作・設置、必要備品の購入（令和元年度～令和4年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アイヌ文化に触れ、学ぶ機会を設けることにより、アイヌ文化に対する理解、関心を深めるためアイヌ文化講座を実施（令和3年度～令和5年度） ● アイヌ文化関連の史跡・地名を掲載した周遊マップを制作（令和3年度） ● 知里幸恵の生涯を描いた一人芝居「神々の謡」の上演（令和5年度） 	
事業の効果	
<p>アイヌ文化関連の絶版図書の収集、郷土資料のデジタル化、市内のアイヌ文化関連資料の悉皆調査を実施し、図書館等におけるアイヌ文化に関する学習環境の向上や、公立及び私立博物館の展示の充実に繋げることができた。</p> <p>また、アイヌ文化関連の看板や周遊マップ、タペストリーを製（制）作・設置し、市民や観光客が日常的にアイヌ文化に触れる機会を創出することができた。</p> <p>そのほか、アイヌ文化講座、知里幸恵の生誕120年と『アイヌ神謡集』発刊100年を記念した一人芝居の上演や知里森舎の森の整備を通じて、アイヌ文化を学ぶ機会の充実を図った。</p>	

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>【事業名】地域・産業振興事業（アイヌ文化のブランド化推進事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アイヌ文様を施した商品開発用デザインを作成の上、市内事業者に提供し、商品開発を促すことにより、アイヌ文化の普及及び市内経済の活性化を図る（令和元年度～令和2年度） 	市
事業の効果	
<p>アイヌ文様デザインコースターを作成し、市内対象飲食店で配布したところ好評を得ており、アイヌ文化の普及及び市内経済の活性化が図られた。また、アイヌ文様を施し、登別ブランドをイメージさせるデザインで手さげ袋、マスクケースを製作・配布したことで、アイヌ文化及び登別ブランドの認知度向上に繋がった。</p>	

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>【事業名】地域・産業振興事業（アイヌ文化関連の観光プロモーション事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 外国人観光客に訴求するアイヌ文化の発信方法を検討（令和元年度） ● 登別市を訪れる観光客をウポポイへ誘導するため、多言語 	市

<p>での案内機能の強化やパンフレットの作成（令和元年度～令和2年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アイヌの観光振興とコミュニティ活動支援にも資する公共交通手段の調査研究の実施（令和元年度～令和2年度） ● 郷土資料館のアイヌ文化関連資料の修復等と展示環境の整備及びアイヌ史跡看板の整備（令和元年度～令和2年度） ● 都市間高速バスの運行に併せ、起終点となる登別温泉地区のバス停留所を整備（令和元年度～令和3年度） ● 登別温泉とウポポイを結ぶ都市間高速バスを運行し、広くアイヌ文化の発信を図るとともに、相互送客の関係を構築（令和元年度～令和5年度） 	
事業の効果	
<p>令和2年4月から登別温泉とウポポイ（民族共生象徴空間）を結ぶ都市間高速バスの運行が開始し、テレビアニメ「ゴールデンカムイ」のラッピングやアイヌ文様のラッピングが多くの人の目に止まつたことで大きな反響となった。</p> <p>また、バス利用者の利便性向上を図るため、整備を行った登別温泉地区のバス停留所については、アイヌ文様を施したバスシェルターの設置工事が完了し、今後も、多くの方に利用されることが期待される。</p> <p>ウポポイ（民族共生象徴空間）への誘客促進については、市街地から登別温泉・カルルス温泉へ向かう道道沿いや国道36号線の沿線、交通結節点などに当該施設の開設周知や誘導、アイヌ文化の紹介に関する看板の設置を行った。</p> <p>郷土資料館のアイヌ文化関連資料の保存処理や修復を行ったほか、新たな展示ケースを設置してアイヌ文化関連展示の充実を図り、市民や観光客に本市の歴史や文化を発信することができた。さらに、本市が輩出したアイヌ語学者知里真志保の顕彰碑の説明看板を製作・設置し、アイヌ文化の保存と情報発信に資する事業となった。</p>	

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>【事業名】地域・産業振興事業（登別市情報発信拠点施設整備事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 登別市観光交流センターを整備し、アイヌ文化を含む豊かな地域資源情報等を発信するとともに、市民の地域活動及び市民と観光客の交流により、地域の賑わい創出を図る。（令和元年度～令和5年度） 	市
事業の効果	
<p>令和4年度末に供用開始を登別市観光交流センター「ヌプル」の駐車場等外構工事を実施し、令和5年10月に竣工したほか、令和6年4月1日より当該施設の外構に設けたバスレーンから室蘭－札幌間及び室蘭－新千歳空港間を周遊する都市間高速バスの発着が開始されたことから、バス停にアイヌ文様のラッピング</p>	

グを施した。

都市間高速バスの発着が始まったことで、観光客だけでなく市民もこれまで以上に本施設を訪れるきっかけとなるほか施設内各所に装飾したアイヌ文様・アイヌ文化に関する展示等や、観光案内所で行っているウポポイ（民族共生象徴空間）をはじめとしたアイヌ文化に関連する施設・情報の紹介により、施設利用者がアイヌ文化を身近に感じる機会となっていることから、アイヌ文化の発信に寄与しているものと捉えている。

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>【事業名】 コミュニティ活動支援事業 (NZ・サイパン等との交流事業)</p> <ul style="list-style-type: none">● 先住民文化尊重、共生社会づくりの世界的な先進地である ニュージーランドへ市内中学校及び北海道登別明日中等教育学校の生徒を派遣（令和元年度～令和5年度） (鉄南ふれあいセンター（幌別生活館）改修・交流事業)● 登別アイヌ協会やアイヌ関係団体の活動拠点となっている 登別市鉄南ふれあいセンターの改修を実施（令和2年度）	市
事業の効果	
<p>令和元年度については、現地での研修と、派遣前・派遣後研修を通じ、ニュージーランドのマオリ族と日本のアイヌ民族との違いや共生社会づくりの先進事例について学び、アイヌ文化の継承や共生社会づくりのためには、アイヌ民族そのものや文化について知る必要があると派遣者も認識することができたが、令和2年度以降については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、事業の実施に至らなかった。</p> <p>アイヌ民族の重要な活動拠点の一つである鉄南ふれあいセンターのボイラー更新及びトイレの便器の洋式化をしたことにより、安全・快適に活用できることになった。</p>	

3. 今後の方針等

令和4年度末に竣工した、登別市観光交流センター「ヌプル」を活用しながら、アイヌ文化の普及啓発活動やその魅力発信を行うとともに、都市間高速バスの運行による観光プロモーションを進めるなど外国人観光客を含む多くの観光客や市民に対し、アイヌ文化の魅力を広め、その継承と発展に取り組んでいく。

特に、文化振興事業については、第1期地域計画期間において、タペストリーを製作・設置してアイヌ文化の伝承や日常的にアイヌ文化に触れる機会の提供に努めたほか、市公式ウェブサイトの特設ページの整備や周遊マップの制作、看板の設置を通じて、アイヌ文化を求め市内を散策する市民や観光客のニーズに対応した。

その一方で、コロナ禍による市民の外出制限等もあったことから、アイヌ文化に関する理解を深めるアイヌ文化講座等を通じた十分な普及啓発活動ができなかつた。そのため、第2期においては、各種普及啓発事業の充実と継続的実施やアイヌ文化等関連施設である郷土資料館の活動充実に努め、アイヌ文化等関連施設の魅力の向上を目指す必要がある。

また、コミュニティ活動支援事業については、新型コロナウイルス感染症の影響によりNZ・サイパン等との交流事業を実施することができなかつたことから、中学生の豊かな人間性と広い視野を育むとともに、本市の多文化共生社会の実現に向けた人材育成に向け継続して事業を実施していく必要がある。